

平成31年1月10日発行

東海生研 ～メールマガジン 第169号～  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

新年あけましておめでとうございます！

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
  - ☆平成31年度農林水産技術会議事務局競争的資金に係る事業・公募説明会 (1月21日)
  - ☆アグリビジネス創出フェア in 東海 (1月29～30日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆平成30年度 食品安全セミナー (1月) (1月17日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆平成31年度 イノベーション創出強化研究推進事業 (農林水産省)
  - ☆平成30年度第2次補正予算 スマート農業技術の開発・実証プロジェクト (農林水産省)
  - ☆平成31年度 スマート農業加速化実証プロジェクト (農林水産省)
  - ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
  - NexTEP-A タイプ企業主導フェーズ
  - ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 (JST)
  - NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
  - ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
  - ☆平成30年度 ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
  - ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆平成31年度農林水産技術会議事務局競争的資金に係る事業・公募説明会

【開催日時】平成31年1月21日(月) 13時～16時

【開催場所】AP名古屋. 名駅 (IMAIビル8階) BCD室  
(名古屋市中村区名駅4丁目10-25)

地図:[http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan\\_kankyo/attach/pdf/181225\\_14-3.pdf](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan_kankyo/attach/pdf/181225_14-3.pdf)

【主催】農研機構生研支援センター、NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【プレスリリース】

<http://www.biotech-tokai.jp/biotech/wp-content/uploads/2018/12/>

予定競争的資金事業等説明会.pdf

【開催案内】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2377>

【事業・公募説明会の内容】

- (1) 「イノベーション創出強化研究推進事業」について
- (2) 「戦略的プロジェクト研究推進事業」について
- (3) その他の技術会議事務局の研究資金等について

【相談会】事業・公募説明会終了後に、事前申し込みをされた方を対象に、農林水産省産学連携支援コーディネーターによる個別相談会（研究内容に関する相談や研究機関のマッチング等）を実施します。参加申込書に相談内容をご記入下さい。開催場所は、事業・公募説明会場隣のA会議室で16:00から開催致します。

【参加申込み】上記の「開催案内」のURLから参加申込書をダウンロードして、ご記入の上、NPO法人東海地域生物系先端技術研究会までお送り下さい。申込締切日は、1月17日（木）です。

.....

☆アグリビジネス創出フェア in 東海

【開催日時】平成31年1月29日（火）10:00～17:00  
30日（水）10:00～16:00

【開催場所】ウインクあいち 6階展示場  
（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）  
アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【開催案内チラシ】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2339>

【プログラム】

開会式（29日）10:00～10:20

成果発表（29日10:20～12:00 研究・教育機関/企業の研究成果）

ブース展示（29日12:00～30日16:00）

企画展示(1)東海・近畿地域の農林水産物加工品等の展示

企画展示(2)東海4県のオリジナルいちご品種の展示及び地域農業研究の紹介

ポスター展示（29日12:00～30日16:00）

技術相談（29日～30日随時）東海生研のコーディネータが各種相談に対応致します。事前にお申し込み下さい（申込書は上記「開催案内チラシ」の裏面にございます）。

【出展募集】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2250>

【主催】農林水産省農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室  
NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

【共催】東海地域農業関係試験研究機関、NPO法人近畿アグリハイテク

○同時開催イベント：「いちごマッチングフォーラム in 東海」

【開催日時】平成31年1月30日（水）13:20～16:00

【会場】ウインクあいち 6階展示場  
（「アグリビジネス創出フェア in 東海」と同じ会場）

【内容】（1）東海4県のいちご品種に関する研究の紹介 13:30～14:30

（2）基調講演 14:30～15:30

「県限定生産苺ブランドをどう育て、どう売っていくのか？」

講師：苺のお菓子研究家

メゾン・ド・フルージュ苺のお店（京都市中京区）

代表取締役 渡部美佳 氏

（3）東海4県「いちご」オリジナル品種の試食、アンケート

（15:35～16:00）

【主催】東海地域農業関係試験研究機関（岐阜県農業技術センター、岐阜県中山間農業研究所、静岡県農林技術研究所、愛知県農業総合試験場、三重県農業研究所）

【お問い合わせ先】NPO 法人東海生研 電話&FAX:052-789-4586

## ◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー(1月)」

【開催日時】平成31年1月17日(木) 13時30分～16時

【場所】東海農政局1階 第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】東海農政局

第一部 13:30～14:35

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局消費・安全部 消費生活課職員

「GAPについて」

講師：東海農政局生産部 生産技術環境課職員

第二部 14:50～15:50

「ご存知ですか食品トレーサビリティ」

講師：東海農政局消費・安全部 消費生活課職員

【プレスリリース】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/181219.html>

【開催案内】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/181219-1.pdf>

【参加】参加費無料、定員先着40名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記「開催案内」裏面の参加申込書をご覧の上、FAX又はインターネット、又は電話でお申込み下さい(申込期限：1月15日)。

【お問い合わせ】消費・安全部消費生活課 担当者：森(啓)、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線2810)ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

会場案内図は、上記の「開催案内」をご覧ください。

## ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

## ◆ 4 ◆ 平成30～31年度競争的研究資金等について

☆平成31年度イノベーション創出強化研究推進事業

(農林水産省)

平成31年度イノベーション創出強化研究推進事業の公募予告がありました。

【予算額】4,080(4,132)百万円(継続分を含む)

【公募スケジュール】

- ・公募開始：平成 31 年 1 月 15 日（火）
- ・公募締切：平成 31 年 2 月 15 日（金）
- ・東海地域での公募説明会：1 月 21 日（月）13 時～16 時、AP 名古屋. 名駅  
（上記「1」の記事を参照して下さい）

【農研機構・生研支援センターからの知らせ】

<http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/brain/innovation/news/2018/120779.html>

.....

☆平成 30 年度第 2 次補正予算 スマート農業技術の開発・実証プロジェクト  
（農林水産省）

【対策のポイント】

国際競争力の強化に向け、近年、技術発展の著しいロボット・AI・IoT 等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装を加速化するため、先端技術を生産から出荷まで一貫した体系として速やかに現場に導入・実証する取組等を支援する。

【予算額】 6,153 百万円（新規）

【事業内容】 1. スマート農業技術の開発・実証  
2. データ分析・解析を通じた技術の最適化

【お問い合わせ】 農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課（03-6744-7043）

.....

☆平成 31 年度 スマート農業加速化実証プロジェクト  
（農林水産省）

【対策のポイント】

農業者の生産性を飛躍的に向上させるためには、近年、技術発展の著しいロボット・AI・IoT 等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装を図ることが急務である。このため、現在の技術レベルで最先端の技術を生産現場に導入・実証することによりスマート農業技術の更なる高みを目指すとともに、社会実装の推進に資する情報提供等を行う取組みを支援する。

【予算額】 505 百万円（新規）

【事業内容】

1. 最先端技術の導入・実証
2. 社会実装の推進のための情報提供

【お問い合わせ】 農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課（03-6744-7043）

.....

☆平成 30 年度研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）  
企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ  
（JST）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切

.....

☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ  
（JST）

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

.....  
☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

.....  
☆平成 30 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)

(総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合 (ICT×○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成 30 年 4 月 12 日～平成 31 年 3 月 29 日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください（下記 URL の後半部分）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○つばき茶の開発

長崎県の五島列島には日本有数の規模のツバキ林があります。地元自治体では、地域活性化のためにツバキ製品の開発等に力を入れており、長崎県農林技術開発センター、長崎県立大学、長崎大学は共同して新たな特産品として「ツバキ葉混合発酵茶」を開発・製品化しました。ツバキ葉と茶葉の混合比率、揉捻時間、酸化時間を様々に変えて、香味、マルターゼ阻害率の高い条件を調査したところ、混合比率 1:9、揉捻時間 20 分、酸化時間 0 時間（酸化工程の省略）が最適であることが分かりました。ツバキ葉混合発酵茶を餌に混ぜてマウスに摂食させたところ、血糖値はほとんど上昇しませんでした。ヒト試験でもツバキ葉混合発酵茶は、血糖値上昇を抑制することが分かりました。これらの試験は、平成 20～22 年度の農林水産省競争的研究資金（実用技術開発事業）により行われました。

・宮田(2018)ツバキ茶と茶葉を混合揉捻したツバキ葉混合発酵茶「五島つばき茶」の製法と食後血糖値上昇抑制作用、食品と容器、59(9)：556-561.

・宮田ら(2015)総説：ツバキ葉と茶葉を混合揉捻したツバキ混合発酵茶「五島つばき茶」の製法と機能性、日本食品工学会誌、62(3)：123-129.

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/nskkk/62/3/62\\_123/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/nskkk/62/3/62_123/_pdf)

☆園芸関係（果樹）

○晩柑カンキツ「せとみ」の長期貯蔵による出荷期間の延長

山口県農林総合技術センターは、平成 16 年に品種登録された山口県オリジナル品種の晩生カンキツ「せとみ」の長期貯蔵試験を実施しています。この試験は、平成 28 年度から実施している革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）の中で取り組まれています。その目的は、本品種の栽培面積の拡大が見込まれることから、販売ピークの分散、国産柑橘の端境期における有利販売を狙っています。本技術のポイントは、低温下（8℃）で、鮮度保持フィルム「P-プラス」、結露防止フィルム「F」で包装するのが適していること、及び夏季出荷において出荷時の昇温馴化処理を組み合わせ、個包装することにより品質低下を最小限に防ぐということです。詳しくは、下記の雑誌記事をご覧ください。

- ・西岡真理(2018)晩生カンキツ「せとみ」の長期貯蔵による出荷期間の延長、果実日本、73（12）：66-70.

#### ☆森林・林業

○シカが目撃情報の提供システム「シカ情報マップ」及び獣害対策支援アプリ「やるシカない！」の開発と活用

愛知県森林・林業技術センターは、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所、株式会社マップクエスト、NPO 法人穂の国森林探偵事務所と連携し、シカによる農林業被害対策のためのシステムとアプリケーションを開発しました。

「シカ情報マップ」は、シカが目撃情報や被害情報をスマートフォンやインターネットに接続したパソコン等から報告し、地図上に表示するシステムです。また、「やるシカない」は、シカによる獣害対策のための無料アプリケーションであり、(1)シカ密度の現状把握マップの表示（5×5km メッシュ単位）、(2)シカ出現予測マップの表示（250×250m メッシュ単位）、(3)シカ目撃地点、シカ被害地点の表示（シカ情報マップに寄せられた情報の表示）の機能があります。このような機能を利用することにより、シカ柵の設置場所や捕獲場所の決定、被害予防、さらには交通事故対策等にも役立てられます。本システムは、主に愛知県の中山間地で活用されています。

- ・愛知県ホームページ：シカが目撃情報の提供システム「シカ情報マップ」  
獣害対策支援アプリ「やるシカない！」

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shinrin-ringyo-c/deer-existence-app.html>

- ・石田・江口（2018）シカの森林被害の軽減化に向けて～実態調査と ICT の活用～、現代林業、625(7)：46-50.

.....  
編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は本研究会の活動にご参加、ご協力いただき、誠にありがとうございました。本年の皆様のご繁栄を心からお祈り申し上げますとともに、本研究会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年 5 月 1 日には、皇位継承により平成から新元号に改元されます。4 月 1 日に新元号が発表されますので、コンピュータの設定や文書表示の変更などが必要となります。また、10 月には消費税の 2%アップが予定されており、レジスター等の変更、キャッシュレス決済に要する機器の新設等、何かと諸経費がかさみます。庶民にとっては、消費税増税によって可処分所得がますます少なくなり、消費低迷の原因ともなりかねません。更に、米中貿易戦争のリスクもあり、今年の経済の先行きは予断できない状況です。本年は猪年ですが、景気上昇に猪突猛進というわけにはいかないようです。

ところで、最近読んだ本に、小杉俊哉著「リーダーシップ 3.0～カリスマから支援

者へ〜」（祥伝社：2013年初版発行）があります。筆者の小杉氏は、NEC、マッキンゼー&カンパニー、アップルコンピュータ人事総務本部長等を歴任し、現在、慶応義塾大学 SFC 研究所上席研究員と合同会社 THS 経営組織研究所代表社員を兼ねるなど、多様な組織を経験されています。著者は、リーダー像は歴史的にみると、時代的背景、組織のあり方、フォロワーとの関係によって、様々に変化してきており、中央集権的な権力者のリーダーシップ 1.0 から、同じ権力者でも分権を指向した 1.1 の時代、調整者の役割を指向した 1.5、変革者の役割を指向した 2.0 があり、現在は、支援者としてのリーダーシップ 3.0 の時代であるとしています。3.0 のリーダーの役割は、メンバーと向き合い、動機付け、主体性をもって自律的に働くように支援することにあるとしています。また、いかにして自社の収益を上げるかの How を知っていることよりも、地球や人々に対して、何をなすべきかという What を追求していくことが企業の持続可能性を高めていくのに必要であると述べています。日本の名だたる企業がリーダーのミスリードにより、程なくして窮地に陥るのを目の当たりにするにつけ、改めて、リーダーの有り方が問われています。リーダーシップを考えていく上で、本書は様々なリーダーのタイプを知ることができ、参考になると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>